

---

# 4月馬鹿

紫紀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

4月馬鹿

### 【Nコード】

N6558K

### 【作者名】

紫紀

### 【あらすじ】

待ちに待った。待ち望んでいた。この日を。

エイプリルフル。去年は友達に嘘をつかれてあっさりと騙されてしまった神崎雅は今年こそ誰かを騙そうと試みるが……

一年にたった一度しかない日が今年もやってきた。  
去年は失敗したけど、今年こそは絶対成功させてやる。

4月1日。エイプリルフール。

去年は友達にウソをつかれてまんまとひっかかった。  
どうやら私は騙されやすいらしい。

今年こそは誰かしら騙してやるんだからっ。

この神崎雅<sup>かんさき みやび</sup>。今日最初に会った人を絶対騙します。

私の学校は春休みがすごく短くて、もう学校は始まってて。  
本来なら最悪なんだけど、友達に会わなくちゃウソなんてつけない  
から、まあ好都合。

私は家のドアから勢いよく飛び出した。

「行つてきまーっす！」

最初に会うのは誰だろう。

もし涼香<sup>すずか</sup>だったら去年の仕返しができるし。好都合。  
昨日考えだした嘘。

”突然具合が悪くなったフリをする。”  
レベルの低さは自覚してるけど、これでも頑張った方。

なんて考えてるともう学校は数十メートル先まで来ていた。

「・・・なんだ。通学途中は誰にも会わないオチかあ。」

「・・・あれっ。神崎かんだき？おはよう。」

独り言を言っていたらふいに声をかけられて驚いた。  
振り返るとそこに立っていたのは。

「・・・おはよう。仲原君なかはら。」

仲原有也なかはら ゆいだった。

ちなみに私の隣の席。

涼香じゃなかったのが残念だけど、まあ・・・いいよね。

「神崎いつもより早いね。」

「そんなことないよ。ていうか仲原君こそ今日遅くない？」

「・・・いや？そんなことないよ。」

「寝坊。」

「・・・。」

「凶星かあ。珍しいね。」

「昨日遅くまでテレビ見てたからな。」

「課題は？」

「・・・。」

「・・・やってないんだ。」

「俺さあ。神崎っていつも優しいなーって前から思ってたさ。」

「・・・見せればいいんでしょう？」  
「さすが神崎っ。ありがとう。」

ありがとうと言いながら照れ笑いした仲原君に思わず見とれてしまった。

別に好きじゃない。本当に。

でも周りからは超モテモテなんだよね。

ていうか普通に話してないで隙を見つけないと。

タイミングをうかがってどのタイミングで腹痛を起こすかを考える。

「あのさあ神崎。」

「何？」

「お前彼氏いる？」

「いませんが何か？」

「・・・なんでキレてんの。」

「キレてないし。どうせ今まで生きてきて16年間彼氏なんていま  
せーん。」

「マジで?」

「マジだよ。」

「・・・じゃあ、さ。」

ふいに仲原くんが私のほうを向いた。

「ん、何？」

「俺と付き合ってください。」

大して驚かなかった。  
タイミングを見つけられずに先越されちゃった。

「残念ながら先越されちゃったかあ。」

「な、何が?!」

「え?何がって今日エイプリルフルじゃん。去年私涼香に嘘つかれたから今年こそは誰か騙そうーって思ってた。でね、今日最初に会った人を騙すって決めてたの。で、それが仲原君だったから。」

「……………」

「いきなり腹痛起こしたふりしてびっくりさせようとしてたの。でも先越されちゃった。」

「……………」

あれ、黙り込んでしまったよ。

まああっさりバレちゃったもんね。私に。

まあ私も先越されちゃって残念だったけど見抜けただけ去年よりは上出来。

「…………えーっと、仲原君?どうしたの?」

「…………はあ。どうしたの?じゃねーよ……………」

「え?ご、ごめん。そんなに嘘、自信作だった?!ほら、まだ、違う人騙せばいいじゃん。ね?」

「いや、そういうことじゃないから。つかエイプリルフルとか忘れてた……………」

「は?」

「人が恥を忍んで言ったっていうのに。」

「だったらそんな恥ずかしくないようなウソにすれば良かったじゃん。たぶんそのウソならほとんどの女子はひっかかると思うよ。でも浮かれさせといて実は嘘でした。は、結構傷つけちゃうと思うからやめた方がいいと思うけどね。」

うん、まあそうだよ。皆キヤーツ！って喜んで突き落とされるんだからきつとキツイよね。

「だから!!」

いきなり仲原君が大きな声を出すからびっくりした。

「うわあ！なっ何?!いきなり大きい声出さないでよ。びっくりした。」

「嘘じゃないんだって!!」

「・・・は?」

見上げた仲原君の顔は真っ赤で。

目が合った瞬間ふいつと顔を背けられた。

私は頭が真っ白になる。が、閃いた。

「分かったっ!!」

「な、何がだよ。」

「嘘じゃなければ罰ゲームだ!」

「・・・はあ?!」

「だってあの仲原有也ですよ。学年1、2を争うイケメンでモテモテの。私だって馬鹿じゃないもん。そのくらい分かるよ。で、何の罰ゲームなの？」

「~~~~っ!!この馬鹿!!」

何故かいきなりの罵声。なんで?!

「何が!何で?!何でいきなり馬鹿って言われなきゃなんないの?!」

「こんの4月馬鹿っ!」

「4月馬鹿?・・・あ、エイプリルフルって4月馬鹿ってことだからか。って納得してる場合じゃないし!」

「今日を選んだ俺も馬鹿だけどまさかここまで鈍いとは思わなかった・・・。」

「俺も馬鹿って分かってるじゃん。なんて言ってるとクラスの女子にリンチされるか。ただでさえ席隣で危ないのに〜っ。」

「っーか話聞けよっ!!」

「聞いてるってば!!」

「だから嘘じゃなくて本当だって言ってるんだろ!!」

「だって今日エイプリルフルだから!」

「俺はお前が好きなんだよ!!」

「いやいやありえないから!!」

急に体温を感じた。真横には中原君の顔。

「なーーーにしてんの?!放してよ!!」

「何ってお前が口で言っても分からないから!」

「いやーだっ!!クラスってどうか学年の女子に殺されるっ

!なんで罰ゲームの相手が私なの・・・。」

泣きそうです。誰も通ってないからまだいいものの。  
今までは何もなかったけどこれを誰かに見られたら確実に集団リン  
チだよ……。

「俺と付き合ってください。」

「仲原君本当にやめて。私まだ死にたくない……。」

「じゃあ俺が守るから。」

「演技力抜群だね。俳優いけるよ。だから放して。」

「返事くれたら放すよ。」

「何で？罰ゲームに返事まで必要なの？」

「まだ信じてないっつーアホな……。」

「信じてないよ！！だって私だよ？！キモイキモい私でございます  
から。しかも相手は仲原君だし。信じろっていうほうが無理でしょ。」

「

「キモくねーよ！……可愛い。」

「そりゃどうも。（超棒読み）」

「……じゃあキスでもしたら信じてくれんの？」

仲原君、顔赤くなりすぎてタコみただよ。

どこまで無理するんだろうか。

「仲原君、それ以上ムリすると、茹で上がるよ？」

「茹で上がる？」

「いや、顔赤くなりすぎてタコみたいになってるから……なんち  
やって……。」

「茹で上がってもいいよ。」

「……は？」

口を塞がれた。口で。

今度こそ本当に頭が真っ白で。

「……………」

「だから本当だって言ってるのに……………」

「……………」

「わ、悪かったよ！いきなり変なことして…！」

「……………」

「ほ？」

「本当に本当なの？！う、嘘じゃなかったの？！」

「だから何回も言ってる…！」

「……………」

今度は私が茹で上がりそうです。

「神崎、顔真っ赤……………」

「いや、そりゃ赤くなりますよ……………。まあ仲原君ほどじゃないけど……………」

「……………」

「うえ？！あ、そ、そっか。えと……………。私は特に仲原君のこと好きだったとかじゃないんだけど、こんなことまでされて惚れないはずもないので、えと、よろしくお願いします……………」

「……………」

そう言っつて仲原君はまた私を抱きしめた。

午前8時29分の某路上にて。

200%遅刻。



(後書き)

どうも、紫紀です。3作目です。

半分くらい1作目とかぶってる気がしますがそこはスルーしてください。

鈍感を書くのは割と好きです。

駄作ですがよかったら感想ももらえるとうれしいです！  
批判でも何でも！今後の参考にしたいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6558k/>

---

4月馬鹿

2010年10月28日01時02分発行